

## 可愛い子には旅をさせよ

初瀬基樹

「ヘリコプターペアレント」という言葉を耳にしたことがありますか？

ヘリコプターペアレントというのはアメリカで生まれた言葉で、子どもの頭の上空からヘリコプターのように常に監視し、何か問題が起きるとすぐに駆けつけて子どもの問題を親が解決してしまうといった、子どもの生活に過剰に干渉し、常に見守る親、過保護や過干渉の親のことを言うそうです。

アメリカというと、乳幼児のときから夜に子どもを一人で寝かせたりするなど、相手が子どもであっても個人を尊重し、幼い時から自立心を育むことを大切にしている国というイメージがありました。しかし、犯罪や事故も多いためか、州によっては子ども（12歳とか13歳ぐらいまで）だけで留守番をさせたり、買い物などの際に車の中に子どもを残していたり、昼間であっても子どもを1人で外出させたりする（1人にする）ことが禁止されていて、違反すると親が逮捕されたり禁固刑が科される場合もあるとのこと。そんなアメリカで、先述の「ヘリコプターペアレント」と呼ばれるような過保護、過干渉な親が増えている、さらにそうした家庭で育った子どもたちが成長して、思春期になった頃にうつ病などの精神疾患を発症するケースが増えているというのです。こうした現象は、アメリカに限ったことではないようです。

親の子どもへの愛情が大きいためこそ、子どもが傷つくことを恐れ、過保護、過干渉になってしまうのだと思います。しかし、それらは一見、子どもを守っている、子どもを大事にしているように見えるかもしれませんが、子どもが自分で問題を解決する能力を育む機会を奪ってしまうことになり、結果的に子どもが成長して思春期になった頃に、子どもの側にうつ病や不安症といったメンタルヘルスの悪化などの症状が現れてしまうというのですから難しいなと感じます。

たしかに、なんでもかんでも親が先回りして子どもの問題を解決していると、子どもは自分で考えたり、行動したりする機会を失い、自主性が育ちにくくなってしまいます。我慢したり、努力したりすることもなく、失敗から学ぶという経験も無いと、それが自信の無さにもつながり、自己肯定感が育たず、うつ病などの精神疾患のリスクを高めることにも繋がってしまうようです。また、親からの過剰な期待を常に受け続けていると子どもはその期待に応えようと、ストレスが増大します。このストレスも長期的には精神的な問題を引き起こす原因になります。さらに、子どもは友達とのトラブルや競争を経験する機会が少ないと、社会性が育たず、孤立感や不安感を抱えやすくなってしまいます。

昔から「可愛い子には旅をさせよ（子どもがかわいいのなら、甘やかさないで、世の中のつらさを経験させたほうがよい）」と言われてきました。いろんな事件や事故のことを考えると心配なことも多いですが、できるだけ、子ども時代に大人から干渉されることなく、友達と自分のやりたいことを自由に存分に楽しむ時間を保障してあげたいものです。

そこで、大切にしたいと考えているのが「冒険遊び」です。「プレイパーク」とか「冒険遊び場」と呼ばれるところでは「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、禁止事項はほとんどなく、子どもたちが自由に遊ぶことが保障されます。そんな環境のもとで遊んでいると、子どもたちには自己判断能力や協調性、創造力が育まれていきます。自然の中での冒険は、危険を伴うこともありますが、その経験が子どもたちの成長には不可欠です。自分で考え、試行錯誤する中で、失敗や成功を通じて学ぶ力が養われていくのです。

※からたちフェスティバルにも登場した「おもしろカー(プレイカー)」は、園長が代表をつとめている「IPAくまもと」が所有している車で、もともと冒険遊び場(プレイパーク)を作る団体である「IPAくまもと」に、熊本地震の際、被災地支援として「日本冒険遊び場づくり協会」から寄贈された車です。

当園の保育にもそうした「冒険遊び」の精神が大きく影響しています。入園説明の際に「小さなケガが大きなケガを防ぐ」とか、「子ども同士のケンカも人との付き合い方を学んでいく大切な機会」（よほど一方的な場合や大ケガに繋がりそうな場合以外は止めずに見守るようにし、いずれ子どもたちだけで解決できる力を身につけていくことができるような対応を心掛けています）といったお話をさせていただいています。

子どもたちが冒険遊びを通じて成長できるよう、引き続き環境を整えていきたいと考えています。今後もしばしば、子どもたちの自由な遊びを見守っていただければと思います。